

平成25年行政事業レビューシート (文部科学省)										
事業名		大学病院人材養成機能強化事業			担当部局庁		高等教育局		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度		事業開始：平成20年度 事業終了(予定)：未定			担当課室		医学教育課大学病院支援室		大学病院支援室長 手島 英雄	
会計区分		一般会計			政策・施策名		個性が輝く高等教育の振興 IV-1 大学などにおける教育研究の質の向上			
根拠法令 (具体的な条項も記載)		—			関係する計画、通知等		・大学病院の周産期医療体制整備計画 (平成20年12月5日文部科学大臣発表) ・医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について (平成22年4月30日 厚生労働省医政局長通知)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)		現在、深刻な医師不足問題や周産期の医療提供体制の構築は、喫緊の課題となっている。 国民が安心・安全な医療を享受できる環境を確保し、医療の高度化等に対応していくため、我が国全体の医療専門職(医師、看護師等)を養成するための教育体制の充実を図る。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)		大学病院において、次の①～④の事業を実施する。(補助率:定額補助) ①大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成 複数の大学病院が連携・協力し、それぞれの得意分野による相互補完を図り、各病院を循環しながら修練や幅広い経験を積むことが出来る医師キャリア形成システムを構築するとともに、大学病院の若手医師に多様なキャリアパスを明確に示すことにより、若手医師が将来に希望を持ちながら安心して研修に専念でき、国民の要請に応えられる質の高い専門医や臨床研究者の養成に資する。 ②周産期医療に関わる専門的スタッフの養成 産科・小児科などの医師不足を背景にした喫緊の課題である周産期医療に関わる専門的スタッフを養成する事業など、国公立大学病院における取組を支援し、優れた専門医等の高度な知識・技術を有する人材の養成を図る。 ③看護師の人材養成システムの確立 大学病院看護部と自大学看護学部・看護学科等が連携して、体系立てられた臨床研修方法や体制等を学問的検討を行って開発し、臨床の看護職及び基礎教育課程の教育レベルを向上させることにより、効率的・継続的な専門能力の習得と向上が図られ、安心・安全な看護提供体制を構築する。 ④チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立 各種技師(士)等の人材養成システムを確立して専門能力の向上を図ることにより、多種多様な医療スタッフや臨床研究支援人材が各々の高い専門性を発揮し、国民に安心・安全な医療を提供するとともに、医師の業務負担を軽減する。								
実施方法		☐ 直接実施 ☐ 委託・請負 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ 交付 ☐ 貸付 ☐ その他								
予算額・執行額 (単位:百万円)				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求		
		予算の状況	当初予算	2,587	2,300	2,077	886	2,673		
			補正予算	0	0	0	0			
			繰越し等	-3	3	0	0			
		計		2,585	2,303	2,077	886	2,673		
		執行額		2,557	2,311	2,074				
執行率(%)		98.9%		100.4%	99.9%					
成果目標及び成果実績 (アウトカム)		成果指標				単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (25年度)
		大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成人数			成果実績	人	7,427	7,787	7,750	
					達成度	%	101%(7,350)	106%(7,350)	105%(7,350)	
		周産期医療に関わる専門スタッフの養成人数			成果実績	人	248	513	584	584
					達成度	%	299%(83)	570%(90)	108%(540)	
		看護職教育指導者の養成人数			成果実績	人	87	171	197	197
					達成度	%	109%(80)	178%(96)	91%(217)	
		チーム医療に関わる大学病院職員の養成人数			成果実績	人	—	747	1,848	1,848
達成度	%				—	934%(80)	231%(800)			
活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標				単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
		プログラム実施数			活動実績 (当初見込み)	件	51 (59)	59 (59)	59 (59)	38 (38)
単位当たりコスト		35(百万円/1大学)			算出根拠	単位当たりコスト =24年度執行額(事務費除く)(2,074百万円)/プログラム実施数(59大学)				
平成25・26年度予算内訳	費目		25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由					
	大学改革推進等補助金		883百万円	2,669百万円	※事業番号0133と統合・再編し、事業の再構築を行う。 ※「新しい日本のための優先課題推進枠」2,500百万円					
	大学改革推進等補助金事務費		3百万円	4百万円						
	計		886百万円	2,673百万円						

事業所管部局による点検						
	項 目			評 価	評価に関する説明	
国費 必要投入 の	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。			○	・深刻な医師不足問題や周産期の医療提供体制の構築等が喫緊の課題となっている。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。			○	・国民が安心・安全な医療を享受できる環境を確保し、医療の高度化等に対応していくため、本事業において、我が国全体の医療専門職(医師、看護師等)を養成するための教育体制の充実を図ることが重要であり、国が実施すべき優先度が高い事業である。	
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。			○		
事業 の 効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。			○	・支出先は公募に基づき、第三者委員会で選定している。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。			○	・事業の実施に当たっては、事業の中間評価の結果を各大学の経費配分に反映させるなど、効率化に努めている。	
	単位当たりコストの水準は妥当か。			○	・経費の執行に関しては、事業年度毎に各大学から提出される実績報告書等において、支出先・使途を把握し、補助金の使用状況や事業目的との整合性について確認を行っている。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			○		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			○		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			—		
事業 の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。			○	・本事業により、複数の大学病院が、得意分野を相互補完するなど緊密に連携・協力し、専門医等の養成に寄与している。具体的には、後期研修医等のための研修コースに毎年度7,000人を超える医師を受け入れ、着実に成果が現れている。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。			○	・周産期医療に関する人材養成については、産科・小児科医の育成プログラムに200人を超える医師を受け入れ、着実に成果が表れている。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。			○	・看護教育指導者の養成人数については、事業が進捗するに従って着実に増加している。	
重複 排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 (役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			—		
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点 検 結 果	・本事業により、複数の大学病院が連携し、得意分野の相互補完を図ることで、質の高い専門医や、周産期医療に関わる専門的スタッフの養成を行うとともに、看護師の専門能力向上により、国民が安心できる医療提供体制の構築が図られている。					
	・また、平成23年度からは新たに、大学病院の多様な医療スタッフの専門性の向上や業務の分担を図るためのチーム医療を支える大学病院職員の資質向上に取り組んでいる。					
外部有識者の所見						
外部有識者による点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
事業 内容 の 改 善	1. 事業評価の観点：本事業は、我が国全体の医療専門職(医師、看護師等)を養成するための教育体制の充実を図ることを目的とした国公立大学に対する補助事業であり、事業成果等の観点から検証を行った。					
2. 所 見：本事業については、過去のレビューを踏まえ、予算の縮減を図ったところであるが、引き続き事業内容を精査し、事業の重点化・効率化に努めるべきである。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
執行 等 改 善	行政事業レビュー推進チームの所見を踏まえ、大学・大学院における専門医療人材養成機能強化事業と統合・再編し、新たに大学における研究マインドを持った次世代医療人材の養成及び拠点の形成を促進する「先進的医療イノベーション人材養成事業」と、医療の高度化等に対応するための優れた専門医療人材の養成及び教育体制を充実する「大学・大学院及び附属病院における人材養成機能強化事業」との2事業への再構築を行う。					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	0168, 0169	平成23年	0147	平成24年	0157

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

文部科学省
2,074百万円

旅費
庁費

0.3百万円
1.0百万円

を含む

対象大学から申請のあった事業内容を
審査の上、支援対象とする取組を選定し、
補助金を交付する。

【公募・補助】

①大学病院間の相互連
携による優れた専門医
等の養成

A. 大学(全21件)
1,124百万円

【公募・補助】

②周産期医療に関わる
専門的スタッフの養成

B. 大学(全18件)
583百万円

【公募・補助】

③看護師の人材養成
システムの確立

C. 大学(全12件)
257百万円

【公募・補助】

④チーム医療推進のため
の大学病院職員の人
材養成システムの確立

D. 大学(全8件)
109百万円

複数の大学病院等が連
携して相互に補い合いな
がら、充実した研修プロ
グラムを実施することで、若
手医師に高度な診療技術
や専門知識を身につけさ
せる。

若手医師の教育や休
業中の女性医師の復帰
支援を行い、周産期医療
に関わる医師数を増加さ
せる。

看護実践教育におい
て効果のある教育プロ
グラムや教育研修体制
を開発し、看護師の実
践能力の向上を図る。

多種多様な医療スタッ
フによるチーム医療や
役割分担を推進すると
ともに、それに必要な人
材の養成のための教育
プログラムを開発・実践
する。

【分担金】

※ 表示単位未満四捨五入の関係で積み上げと合計が一致しない。

B. 連携大学
(全139大学)
678百万円

申請担当大学と相互に連携・補完
して若手医師に高度な診療技術や
専門知識を身につけさせる。

【筑波大学のケース】

A. 筑波大学
72百万円

筑波大学は、4大学と相互に連
携・補完して若手医師に高度な診
療技術や専門知識を身につけさ
せる。

【分担金】

東京大学
15百万円

千葉大学
13百万円

東京女子
医科大学
13百万円

自治医科大学
15百万円

筑波大学及び他連携大学と相互に連携・補完して若手医師
に高度な診療技術や専門知識を身につけさせる。

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.筑波大学			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
分担金	連携4大学への分担金	56			
人件費・謝金	研修コーディネーター雇用経費、プログラム事務担当者経費、シンポジウム講師謝金等	14			
その他	シンポジウムチラシ、事業報告書印刷費、会議費、ホームページ運営管理費等	2			
計		72	計		0
B.東北大学			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
人件費・謝金	医師雇用経費、女性医師育児短時間勤務者雇用経費、臨床工学技士雇用経費等	34			
その他	ホームページ管理費、関連セミナー会場借料、産科救急実技講習参加費等	3			
旅費	セミナー講師招へい旅費、若手・女性医師研修会等参加支援旅費等	1			
計		38	計		0
C.東京医科歯科大学			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
物品費	看護スキルスラボ備品、看護技術演習のための容疑・医療材料費、教育開発に係る消耗品等	8			
人件費・謝金	キャリア支援センター専門職員(教員、事務補佐員)雇用経費、講演謝金等	7			
その他	ホームページ管理費、報告書印刷製本費、関係学会参加費等	6			
旅費	外部評価委員会委員旅費、講義・講演講師旅費等	1			
計		22	計		0
D.岡山大学			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
人件費・謝金	事務補助者雇用経費、教育講演講師謝金等	5			
旅費	多職種連携型教育研修、国際学会出席旅費等	5			
その他	eラーニング教育システム開発委託費、患者説明用パンフレット印刷製本費	3			
物品費	教育システム設備備品、評価研究会用消耗品等	1			
計		14	計		0

支出先上位10者リスト

A.大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成

※補助事業

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	筑波大学	東関東・東京高度医療人養成ネットワーク	72	—	—
2	東京医科歯科大学	都会と地方の協調連携による高度医療人養成	71	—	—
3	北海道大学	自立した専門医を育むオール北海道プラス1	66	—	—
4	島根大学	山陰と阪神を結ぶ医療人養成プログラム	66	—	—
5	名古屋大学	東海若手医師キャリア支援プログラム	63	—	—
6	慶應義塾大学	地域躍動型専門医養成一貫教育プログラム	63	—	—
7	京都大学	マグネット病院連携を基盤とした専門医養成	58	—	—
8	琉球大学	多極連携型専門医・臨床研究医育成事業	57	—	—
9	東北大学	東北高度医療人キャリアパス支援システム	56	—	—
10	新潟大学	NAR大学・地域連携「+α専門医」の養成	56	—	—

B.周産期医療に関わる専門的スタッフの養成

※補助事業

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	東北大学	周産期医療若手・女性医師支援プロジェクト	38	—	—
2	筑波大学	地域と大学の連携による周産期人材育成事業	36	—	—
3	信州大学	周産期医療人材育成プロジェクト	36	—	—
4	富山大学	総合的周産期医療人育成プログラム	34	—	—
5	徳島大学	魅力と働き甲斐の創生による周産期医療再生	34	—	—
6	九州大学	周産期ゆりかごネットプロジェクト	34	—	—
7	大阪医科大学	「高度周産期医療人養成推進プログラム」	34	—	—
8	兵庫医科大学	兵庫医大の特徴活用型周産期医療支援事業	34	—	—
9	高知大学	高知県周産期医療人材育成プログラム	33	—	—
10	浜松医科大学	静岡周産期医師長期支援プログラム	33	—	—

C.看護師の人材養成システムの確立

※補助事業

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	東京医科歯科大学	看護職IKASHIKAキャリアパスの開発	22	—	—
2	東北大学	看護キャリアプロモート支援システム開発	22	—	—
3	岡山大学	EBN志向の次世代看護職教育システム開発	22	—	—
4	九州大学	看護実践力 プロッサム開花プロジェクト	22	—	—
5	慶應義塾大学	看護職キャリアシステム構築	22	—	—
6	新潟大学	‘気づく’を育て伸ばす臨床キャリア開発	21	—	—
7	名古屋大学	Saving life ナース育成プラン	21	—	—
8	神戸大学	キャリアシステム・神戸REEDプラン	21	—	—
9	徳島大学	愛と知と技のバランスのとれた看護職養成	21	—	—
10	京都府立医科大学	循環型教育システムによる看護師育成プラン	21	—	—

D.チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立

※補助事業

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	岡山大学	岡山大学病院ベリオ人材育成研修センター	14	—	—
2	筑波大学	患者中心の医療を実践する人材養成の体系化	14	—	—
3	東北大学	高度専門医療チーム活性化システムの開発	14	—	—
4	広島大学	高度急性期医療を支援する医療人教育モデル	14	—	—
5	九州大学	先進的チーム医療の推進とその安全性の確立	14	—	—
6	昭和大学	多職種協働の救急チーム人材養成システム	14	—	—
7	近畿大学	救急災害医療のためのチーム医療推進	14	—	—
8	産業医科大学	医療連携アドバイザー養成プログラム	14	—	—